



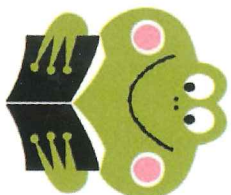
ハチの話

はち
ち
はなし

作 = 松田 緑

挿絵 = 佐藤 繁

監修 = NPO法人日本語多読研究会



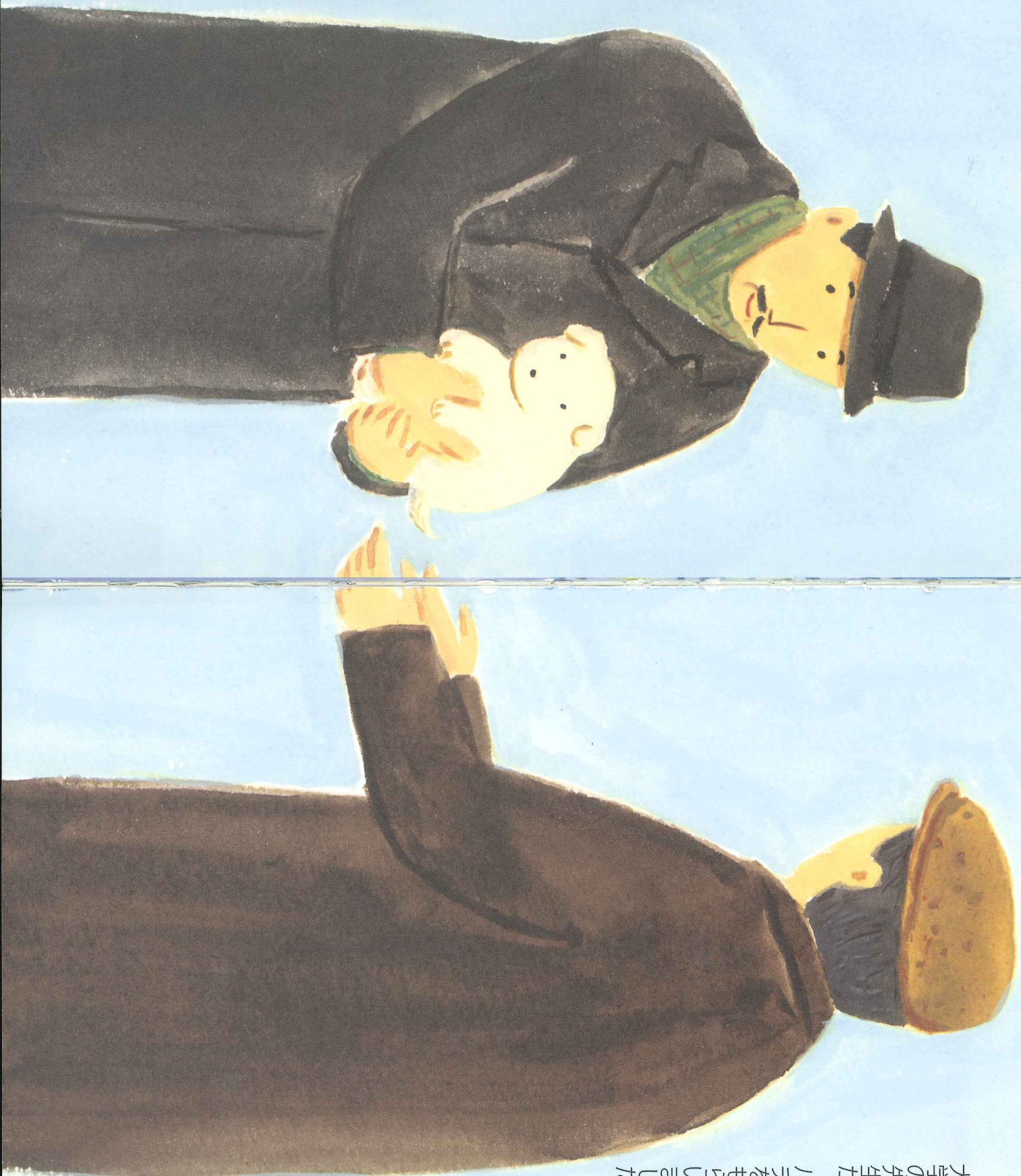
にほんご よむよむ文庫

これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。4レベルに分かれていて、音読、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いているので、辞書を引かなくてどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数 / 1話
1	初級前半	350	400 ~ 1500
2	初級後半	500	1500 ~ 2500
3	初中級	800	2500 ~ 5000
4	中級	1300	5000 ~ 10000

ハチの話

「ハチ」が、大学の先生になやってきました。ハチといつも一緒にいます。ある日、大学で倒れて……。日本で一番有名な犬のお話



大学の先生が、ハチをもらいました。

「ハチ」は、子猫の犬です。

ハチと先生は、一緒に寝ます。

ハチと先生は、一緒に風呂に入ります。

ハチと先生は、一緒にご飯を食べます。

ハチと先生は、一緒に遊みます。



先生は、毎日、大学へ行きます。

八子は、朝、先生と一緒に駅へ行きます。

先生は、渋谷駅で電車に乗ります。

「八子、行ってきます」

「ワンワン」

八子は、つたく帰ります。



ハチと先生は、一緒にひたひたに寝ています。

ハチはうれしです。

「ワンワン」

「ハチ、だだいま」

先生が、雷を降ります。

ハチは、父が、渋谷駅へ行きます。



その日、ハチは朝、先生と一緒に渋谷駅へ行きました。

「ハチ、行ってきます」

「ワンワン」

先生は、大学へ行きました。



ハチは、夕方、渋谷駅へ行きました。

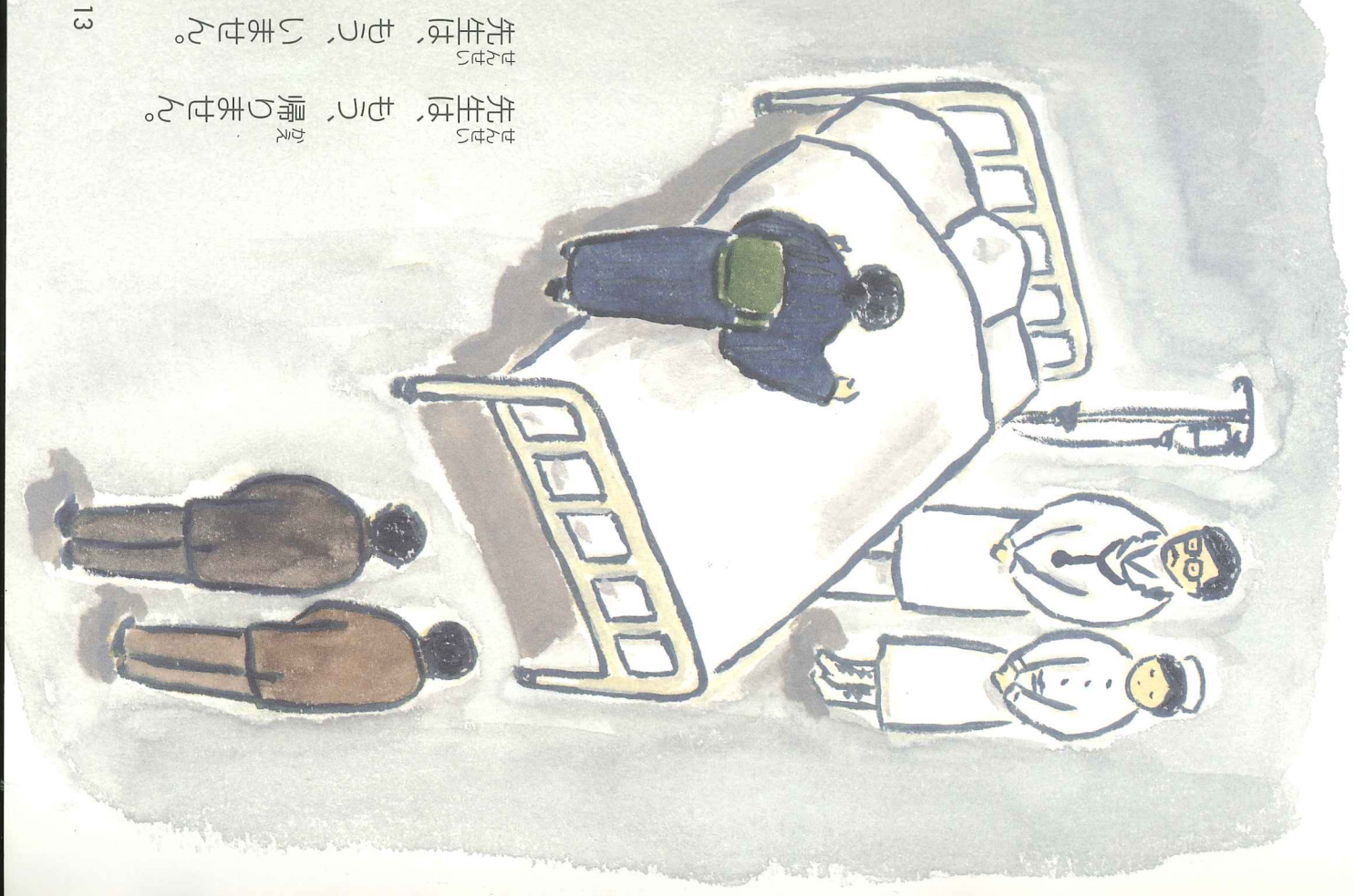
でも、先生は帰りませんでした。

先生は、その日、

大学で倒れました。

そして、

大学から病院へ行きました。



先生は、その日、帰りました。

先生は、その日、いきました。

でぞ、八手は、
はち

それかわかいます。

八手は、毎日、
はち 毎日は、
あつた 夕方

渋谷駅へ行きました。

そして、先生を待ちました。
かみち 先生を待ちました。





風かぜが吹ふぎます。

雪ゆきが降ふります。

雨あめが降ふります。



そして、春はるが来きます。

冬ふゆが来きます。

秋あきが来きます。

夏なつが来きます。

先生せんせいは帰かえります。

また、電でん車しゃが来きます。

先生せんせいは帰かえります。

電でん車しゃが来きます。

今、渋谷駅の前に、八千代の像があります。

八千代、十年、毎日、渋谷駅へ行きました。

先生は、帰ります。

先生を待ちます。

八千代、毎日、夕方、渋谷駅へ行きます。

はち せんせい
ハチと先生

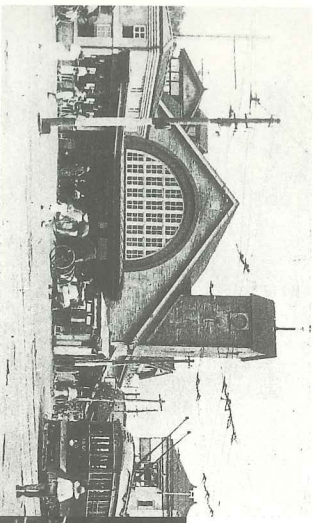


はち
ハチ 1923～1935年
(小林和子氏所蔵)



うえの ひでぢる(せんせい)
上野英三郎先生 1871～1925年
(小林和子氏所蔵)

はち しんや
ハチと渋谷駅

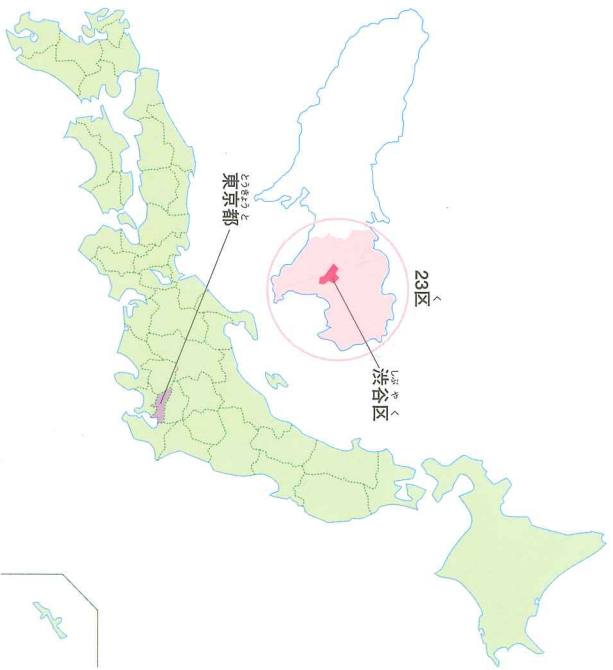


ねんごころ しんや
1920年頃の渋谷駅
(渋谷区郷土博物館・文学館所蔵)



かいたつ せんせい ま はち
改札で先生を待つハチ
(小林和子氏所蔵)

はち はなし
「ハチの話」の舞台・渋谷



いま しんや
今の渋谷駅



ちゅうじん はちこうざう
忠犬ハチ公銅像



しんや えきまえ
渋谷駅前